帆船乘組現員表

Aは「アップレンチス」
△印は補助機關を有するもの

積量	隻數	噸數	一隻ニ付(平均) 高級	一隻ニ付(平均) 下級	高級船員 甲	高級船員 機	下級船員 甲	下級船員 機	事務員共	計
二〇－五〇 △	四、六五三	一六三、三一三	丙運		四、六八〇	｜	｜	｜	｜	四、六八〇
五〇－一〇〇 △	二、八六八	三〇九、五九六	丙運	水一	二、八三八	｜	五、六五六	｜	｜	八、五二四
一〇〇－二〇〇 △	一、五九八	二二〇、四四〇	丙運	水二 火一	一、五八七	｜	三、一七四	二九	｜	四、三九〇
二〇〇－三〇〇 △	三七	四、八四四	丙長 丙運	水四 火一	四〇	｜	八〇	一七	｜	一三一
三〇〇－五〇〇 △	三四	一三、五〇〇	丙長 丙運 三機	水A 六一 火一	一〇四	四	四九	八	｜	一七五
五〇〇－一〇〇〇 △	一	七〇〇	船長 一運 二運 二機	事A 四二 火木 三八	三	一	一〇	一三	四	三一
一〇〇〇－三〇〇〇 △	一	二、四〇〇	船長 一運 二運 一機 二機 三機	水事 三〇七 火 一〇	四	一	三〇	一〇	七	四三
六〇〇〇－八〇〇〇	二七	一八二、二〇〇	甲船長 甲一運 甲二運 甲三運 一機長 二機 三機	水A 三〇四 事火 三四四	一〇八	一〇八	八六四	一、二四四	九七二	三、二九六
八〇〇〇以上	三	二八、九〇〇	甲船長 甲一運 甲二運 甲三運 甲四運 機長 一機 二機 三機 四機	水A 四〇六 事火 三〇四	一五	九	一二六	一六八	六三	一九一
計	三、二四五	一、九九九、九五五			四、〇〇四	三、六〇五	一七、九八九	三、八二九	八、一五二	三六、五九八

計		
隻數	△	九、二〇五 二一九
噸數		九八五、五九三
高級船員 甲		九、二四六
高級船員 機		六六
下級船員 甲		九、〇〇九
下級船員 機		五五
事務員共		二一
計		一八、四五五

本表は現在登錄船舶の全部が想定通の船員を乘組ましめ航海の用に供せられつゝあるものと看做して作製したるものなるを以て

第一 各船の實際乘組員數が此の想定員數に適合せざる爲め其の結果は不正確となる。

第二 本表計上船舶中には現に航海の用に供せられず從て乘組員を有せず又は其數著しく少なきものあるべきを以て結果の不正確となるを免れず。

然れ共第一の點に於ては大小多數の船舶中自ら過不足略平均して全體の數字は實際のものと大差無きを得べく、第二の點に付ては登錄船中今日徒に繫船せるもの殆んど無かるべく若し有りとするも其代り本表には各汽船會社が現有する多數の豫備員數を計上せざるを以て之れ亦差引調和して結果は實際と大差無きを得べく卽ち以上の數字は汽船に就ては大體眞に近きものとの自信を有す。

唯小帆船は實際上一箇年中約三分の一乃至五分の一を修繕其他の爲に繫船する事多く其の乘組員も亦區々にして員數を求むる事頗る困難なり。從て丙種船長乃至運轉士に關する數字は最も不正確と稱し得べし。然れ共此種船員の養成は比較的簡易にして需給の調和を計る事困難ならず。又本論に於て乙種以上の免狀受有者とは全然別種の關係に立つものなれば暫く其の數字の適否を度外視するも差支なかるべし。尙參考の爲大